

## 古代の宇宙観—古代インドの宇宙観？

展示場4階の中程にある「古代の宇宙観」は、近代科学以前の人類が宇宙をどのようにとらえてきたかを、模型とパネルで紹介したものです。原型は開館当初にあったもので、1999年の第二次展示改装で再構成しました。

当時それなりに勉強して作り、今では書籍でもよく紹介される、プラネタリウムの原型とも言われる惑星位置計算機「アンティキシラ・マシン」の実物の写真をアテネ考古博物館から取り寄せるなど、苦勞した展示です。なお、写真代(たしか5000円くらい)は「ギリシャのアテネ銀行の口座に払ってね」といわれたのですが、日本に支店がなく、国際取引に強い東京三菱銀行(当時、今は三菱UFJ銀行)に相談するも送金方法が見つからず、悩んだ末、実は世界ネットがある郵便局(当時)の送金でうまくいったなんて裏話もあったりします。なおこの話、今は、制度が全く変わっているので参考になりません。だいたい通貨もドラクマ(世界最古の通貨といわれドルの語源)からユーロになっているし、クレジットカードも使えますしね。

さて、古代の宇宙観のなかで最近キャプションをいじったものがあります。それが、非常に人気が高い「古代インドの宇宙観」です。YOUTUBEの学芸員の展示場ガイドでも述べていますが、この展示が示す古代インドの宇宙観は、蛇、亀、象が大地を支え、その中心に山があるというものです。

まず、インドは多様な国家なので「インドの宇宙観」が一つというのは間違いです。



図. 古代インドの宇宙観？

「地球」を考えた人もいました。また、記録を遡ると象が支えたとか亀が関係しているというのはあるものの、蛇はないそうです。この図は古代どころか19世紀になって欧米の作家の想像で描かれたものようです。ということで、キャプションのほうも書き直しましたが、そもそもこの展示をおいておくのがよいのか、非常に悩んでいます。古代の宇宙観を間違っただけとらえた例としてはおもしろいのですが。

**渡部 義弥(科学館学芸員)**